



環境大臣 小泉進次郎様

CC:日本オリンピック委員会会長 山下 泰裕様

CC: 日本パラリンピック委員会会長 鳥原光憲様

CC:国際オリンピック委員会 (IOC) 会長 トーマス・バッハ様

CC:国際パラリンピック委員会会長 アンドリュー・パーソンズ様

CC:株主会社 J ヴィレッジ 代表取締役社長/福島県知事 内堀雅雄様

J ヴィレッジ(福島県)周辺で検知されたホットスポットについての緊急の情報提供と要請

2019年11月18日

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

所在地: 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F

電話番号: 03-5338-9800

事務局長 サム・アムネスリー

福島県復興への日頃のご尽力に敬意を表します。

今回、弊団体による福島県、とくに J ヴィレッジ(檜葉町、広野町)での放射線調査において、貴職の速やかなご対応と除染を要すると思われる憂慮すべき結果がでましたため、暫定的なまとめではありますが、お知らせいたします。弊団体が 11 月に実施した放射線調査で、J ヴィレッジにおいて深刻な公衆衛生上のリスクと考えられる高いレベルの汚染が検知されています。当該の場所は 2020 年 3 月 26 日に 2020 オリンピック/パラリンピック聖火リレーの出発地点となるところです。

グリーンピースが福島県で実施している 2011 年に発生した東京電力福島第一原発事故で放出された放射能の影響調査の一環として、2019 年 10 月 26 日に J ヴィレッジ周辺の汚染状況を調査しました。調査当時、J ヴィレッジではサッカーの試合がおこなわれており、高濃度の放射線が測定された場所の近辺は一般に開放されたエリアにあり、選手や観客が頻繁に立ち入りをしていました。

調査は以下の 3 つの異なる方法でおこないました。

- ・ J ヴィレッジ周辺道路に沿って高感度 NaI シンチレーター Georadis RT-30 を路面から高さ 1 メートル位置に搭載した自動車を走行させ毎秒空間線量率を測定。



- ・ J ヴィレッジのトレーニングセンターの近くのエリアの歩道を高感度 NaI シンチレーターGeoradis RT-30 を路面から高さ1メートル位置に持ち、歩行して毎秒空間線量率を測定。
- ・ トレーニングセンターの近くのエリアで Thermo Radeye NaI シンチレーターを使用しホットスポット探索をおこない、高いレベルの線量率が測定された場所で地表から10cm、50cm、1mでの線量率を測定。

暫定的な知見のまとめ

調査は10月16日から11月5日に、J ヴィレッジ周辺、福島市、浪江町、飯舘村、大熊町、阿武隈川・新田川川岸でおこないました。結果は分析とともに2020年2月に包括的な報告書にして発行する予定です。しかしながら、危険なレベルの高濃度の放射線がJ ヴィレッジにて測定されたことは貴職による緊急の配慮を必要としています。この書簡は公衆衛生への被ばくリスクを低減するために、緊急の予防策をとっていただくための建設的なコミュニケーションを目指すものです。

弊団体のJ ヴィレッジでの調査は包括的なものではありません。グリーンピースの原子力モニタリング・放射線防護アドバイザーらがこの特定のエリアに滞在していた時間はわずか2時間でした。しかしながら、複数のホットスポットが測定され記録されました。これらは多数の一般市民がアクセス可能なエリアであり(とくにJ ヴィレッジ・トレーニングセンター近くの駐車場では最も高い数値で、地表面接触で71 μ Sv/h、高さ10cmで32 μ Sv/h、50cmで6 μ Sv/h、1mで1.7 μ Sv/hが測定されています)、これらのホットスポットは硬い地表面に草や木が生えている場所で、高さ50センチ未満の場所で見つかりました。(画像参照)

大雨がこれらの高レベルの汚染を公道に広げて、すでに除染された地面を再汚染するリスクがあります。それは、J ヴィレッジの一般に開放されたエリアで実施された除染の努力を削いでしまうことにつながります。弊団体では、今回のホットスポットは、再汚染が原因と考えられるレベルより高いレベルの汚染であるため、そもそも除染が十分に徹底されていなかった可能性があると考えられるほうが論理的であろうと見ています。

一方で、地表面より1メートルの高さでの歩行サーベイと自動車による走行サーベイでは、比較的低いレベルでの汚染が測定されています。グリーンピース・チームが2018年10月、2019年10月～11月に実施した浪江町や大熊町のような東京電力福島第一原発近郊の地域で共通して見られたレベルと比較しても低いレベルでした。(2019年3月発行の報告書『原発事故の最前線 :労働者と子どもへのリスクと人権侵害 福島県 浪江町と飯舘村における放射線調

査』:<https://www.greenpeace.org/japan/sustainable/publication/2019/03/08/7187/>

をご参照ください)。



Jヴィレッジでのオリンピック/パラリンピック関連のイベント開催までにはまだ時間があり、市民がオリンピック/パラリンピックの2020年3月26日のJヴィレッジでの聖火リレー開始を含む関連イベント中にホットスポットの影響を受けないように措置を講じることは可能であると考えます。しかし、その場所は現在も一般利用が可能であるため、早急に措置を講じることを提言いたします。

さらに、汚染は環境内で移動するため、除染は一時的な手段であることを前提にするべきと考えます。よって現在、そしてオリンピック/パラリンピック開催中、そして開催後も、継続的なモニタリングが必要です。これら高レベルの放射能汚染のホットスポットが存在することは、現在の政府の政策に、以下のより基本的な問題を提起しています。

* Jヴィレッジで実施された実質的な除染プログラムの実際の有効性。

* なぜ、そのような高いレベルの放射能が今回特定された場所に存在しているのか、どれくらい長い間、そこに存在していたのか。

* Jヴィレッジのこれらのホットスポットはどの程度広がっているか、関係当局は現在どのようなモニタリングを実施しているのか。

調査で確認された放射能のレベルは、除染作業の有効性に関して大きな問題を提起しています。2016年から2019年までの弊団体の報告書などで、近年記録してきたように、福島県の山林地域には、除染ができないために放射性セシウムが残っており、今後数十年にわたっての再汚染は避けられません。したがって、Jヴィレッジを含め、除染の効果が短い期間しか持続しない可能性があります。

そのため、福島県での除染を所轄する環境省におかれては、日本のオリンピック委員会および国際オリンピック委員会と協議して、Jヴィレッジでの放射能汚染の問題に早急に対処することを提案します。

グリーンピースは、以下の対策をとられることを提言いたします。

1. Jヴィレッジ周辺の公共エリアおよび周辺のオリンピック/パラリンピック会場の即時かつ広範囲の放射線調査および高濃度の放射能汚染調査。市民が頻繁にアクセスするエリアの高いレベルの汚染の除去を、それらが再汚染を引き起こす前に実施すること。これには、道路や舗装道路、フィールドだけでなく、より高いレベルの汚染が見つかった地域や、すでに汚染されていない地域を再汚染した可能性のある地域に沿った草や、森林など植生が成長した土壌も含まれる必要があります。

2. 今回特定されたホットスポットだけでなく、公共エリアのより広い範囲の土壌(草、森林)の除染。



3. 公共エリア除染後の定期的モニタリング、そのフォローアップとしての除染。

私たちは、本件について建設的に協力をしたいと考えており、また、緊急の除染作業を支援したいと考えております。貴職が公衆衛生上憂慮すべき本件に緊急に取り組む場合、調査チームや調査結果の提供を含め、その他の情報提供や協力をさせていただきます。

開放エリアの高いレベルの汚染が特定された箇所の地図を添付しています。J ヴィレッジが一般に広く使用されている場所であること、また 2020 年 3 月 26 日にオリンピック/パラリンピックの聖火リレーに使用されることから以下を要請いたします。

1. 高いレベルの放射能の存在場所を特定し、除染を実施する計画について緊急に弊団体に提供をすること
2. 再汚染を防止するためのプログラムについて弊団体に通知をすること

弊団体では、この書簡を日本語および英語で、配達証明郵便、および e-mail、および手渡しにて環境省環境大臣宛としてお届けします。大変恐縮ですが、本件に関して、お返事をいただける十分な時期を考慮し、2019 年 12 月 19 日 (木曜日) までのお返事をいただきますようお願いいたします。

ご不明な点などありましたら、以下までお寄せいただきますようお願いいたします。

sam.annesley@greenpeace.org

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル 2F

サム・アネスリー

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

事務局長





GREENPEACE